

## 八四歳(はし寿)は、ほんの通過点

昨年初夏、僕ら夫婦と息子、家族三人に、行きつけの居酒屋が出来た。福○内(ふくわうち)という。歩いて五く六分のご近所だ。息子がインターネットで知ったらしい。そのネット上でかなりの評価を得ていて、まさに灯台もと暗しであった。

日本酒が専門で、全国の銘酒が勢揃いしているという。早速出向いてみた。なお、僕は相変わらずお酒を断っているため料理専門。それが本格的で実に旨い。器もお洒落だ。

その店はご家族三人で切り回し、息子さんが調理しご主人とその奥様がサービスを担当。年恰好はほぼ僕らと変わらないことで初対面から親近感を持って、その後何度か足を運ぶようになった。

その福○内から元旦に年賀状を頂いて、その内容文に感服した。

昨年の過激な気候を振り返り、熱烈ファンらしいDENABEイスターズの下剋上物語、大谷選手の値千金や政治資金また森貴主の漢字で「金」にまつわる多様な話題、そしてご夫婦の結婚六〇年のダイヤモンド婚をあくまで通過点と云い放った年頭あいさつは見事であった。

これは単なる宣伝文句でない。通わざるを得ない、その気にさせる配慮の効いたダイレクトメールである。そして僕と同年齢、そのご主人が行く先の抱負を悠然と云い放った決意だ。

そこで、ふと思ったのは六組瀬戸さん。年初の俳句を以って表明された百二十歳の決意である。これに感じ入っていた。

僕はといえば、昨年来身体の老いに負けて、床に伏せがちであったが、御二方より、眼の覚めるような達観を感じて元気を頂き、ようやくと、投稿に至った次第である。

(感謝)